



地域に寄り添う、ファシリテート力、 コーディネート力をつけるために



コロナ禍で増加したオンラインに、受講者が気軽に関わる機会と、生涯学習推進センターが今取り上げてみたいテーマを重ねて、当初計画にはない講座として開催した3回の講座の内の一つです。

センター受講者が希望する上位にある「ファシリテート力、コーディネート力を付けたい」というアンケート結果を受けて、実践者の話を、船木成記さんが意味づけする形で開催しました。

受講者：144名（当日参加28人、後日YouTube視聴116人）

<研修内容>

船木成記氏 [（一社）つながりのデザイン]

*人の育ちの立場から

戸田千登美氏 [（一財）長野県長寿社会開発センター]

*シニアの学びに寄り添う立場から

新美亮介氏（伊那市社会福祉協議会）

*子どもの育ちと地域をつなげる立場から



<受講者アンケートから>

- 登壇者の活動の背景や、考えに触れて共感することができる良い機会でした。みなさんお立場は異なりますが、共通の軸があることを再確認できました。今後の業務に生かしていきたいと思えます。（県職員）
- 本日はありがとうございました。拠点作りや、コミュニティースペース作りを検討しているのでとても参考になりました。縁側、とても素敵です。子どもとシニア世代の交流、駄菓子屋などは正に実現できたらいいなあと思っていたことでした。また、自分にできることを考えながら、地域の方のつながりや、活動のお手伝いができればと思っております。（市町村職員）
- 具体的なイベントの紹介もあり、わかりやすかったです。一番印象的だったのはゴールをファシリテーションではイメージしておく必要があるという言葉でした。参加前と参加後での新しい考え方を、参加者が取り入れていく進め方を、これからは意識したいと思いました。（一般）
- 未来がより良い状態になるために、自分も変わりながら変化していくという部分は、公民館主事も学びつづける部分と共通していると感じました（公民館職員）